

三芳町の鼓動、始まる。

平成28年2月25日に第1回三芳町議会定例会で施政方針が発表されました。まちの進む未来や今後の取り組みをその中からお伝えします。



未来につなぐ ひと まち みどり 誇れるまち

福 島智(さとし)氏。3歳で右目、9歳で左目を失明。14歳で右耳、18歳で左耳の聴力を失う。光と音を奪われた極限状況の中で不安と恐怖に包まれ、自らの生きる意味を探し求めます。「私は自分の力で生きているわけではない。人間の理解の及ばない何かがある、命の種をもたらした、ここに私が生きているとしたら、この苦悩、つまり、目が見えなくなり、耳が聞こえなくなったというこの苦悩に満ちた状況にも何かしらの意味があるのではないか」(『ぼくの命は言葉とともにある』より)と考えます。自らの体験と思索を経て、福島氏は、幸福の土台は「希望」と「交わり」だと言います。福島氏の幸福論は、まちづくりの幸福論に通底しています。「希望」は、町の未来へのビジョンであり、私たちに夢と生きる勇気、生きる意味を与えてくれます。「交わり」は、協働、共助、連携、共生と行うことができるのではないのでしょうか。様々な人、地域、団体の皆さまでともに生きるにより、生きている喜びの実感が生まれます。今年、新たなまちづくり、第5次総合計画がスタートします。それは、まさに私たちにとって「希望」であり、それをともに実現していく。ともに汗をかき、実現していく過程に、さらに8年後、その彼方に幸福が待っていると信じます。町が、新たな「鼓動」を開始します。「どくどく」「どきどき」「わくわく」 「鼓動」は、生命の証です。第5次総合計画に生命が宿ります。ともに町の生命を動かし、生きている喜びと幸せを共有し、私たちの夢を実現する時です。
— 平成28年施政方針 冒頭から —

みんな未来を拓くまち

協働のまちづくり
まちの魅力を創出していくためには、皆で知恵を出し合うことが大切です。「協働のまちづくりネットワーク」を中心とし協働を推進。NPOやボランティア団体、相互につながり合う機会を創出し、住民主体のまちづくり活動のネットワーク化を促進します。

特色ある教育
町のすべての人々が支え合い、生きがいと誇りを持って暮らし、輝くことのできる町にするには人づくりが不可欠で、大きな役割を担うのが「教育」です。特色ある学校教育や社会教育を通じて、三芳町の未来のまちづくりを担い、日本や世界で活躍する人材を育成していきます。(P8-9参照)

生涯にわたる学びと活動
今日、人々の心の豊かさや生きがいがいよいよますます重視されています。多様な社会教育やスポーツ等の推進を通じ、人々の生きがいづくりや個性と能力の発揮を促進するとともに、町独自の芸術文化の創造と継承を図っていきます。

青少年育成
子ども大学みよしでは、スポー

スポーツ
みよし大崎ジュニアハンドボールチームは、引き続き、チームと教室の事業を継続し、女子の活動活性化や中学生も含めた活動を進めます。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、青少年を中心とするスポーツ奨励金制度の検討を行っていきます。

芸術文化
昨年度は芸術文化活動の専門的な立場でのコーディネートを委嘱し、「三芳町芸術文化支援事業」の公募を行いました。今年度は2件の支援事業が行われ、芸術文化活動の指針とするための「(仮称)芸術文化まちづくり条例」の準備を進めます。

公民館
社会性のあるテーマに焦点をあてた社会講座「週末ほっとワークス」を開催。また、

図書館
今年度は、第2次子ども読書活動推進計画(平成29年度〜33年度)を策定するとともに、家読、読み聞かせなどの読書活動が活発に展開される「よみ愛・読書のまち」を推進し、様々な場で読書の喜びを共有できるまちづくりに努めていきます。

文化財
竹間沢車人形やお囃子などについては、体験教室開催などで後継者育成や保持団体の活動支援を行います。埋蔵文化財調査は、開発事業と遺跡保護との調整に引き続き取り組みます。上富の旧島田家住宅では、ビジターセンターとして三富開拓地割遺跡の普及啓発、さつま苗床などの生体展示や年中行事の再現など、直接ふれて感じる活動を通して、三芳の歴史や文化、季節の営みを紹介していきます。

三芳町第5次総合計画

町の3つの基本目標

- ① みんなで未来を拓くまち
- ② 安全安心で幸せに暮らせるまち
- ③ 緑と活力にあふれた魅力あるまち



2月25日に行われた議会冒頭で町長が施政方針を表明した。

